

■関連文化財群の構成要素（ストーリーに關係する文化財）

No.	文化財名称	指定等の状況	説明	所在
1	N30 遺跡	指定なし	平成7年（1995年）～平成8年（1996年）に、建物の建設工事に伴う発掘調査を実施した結果、縄文時代後期から晩期（約3700～2300年前）の竪穴住居跡、土坑跡、たき火跡、柱跡などの生活跡と遺物が大量に発見された。	西区二十四軒4条1丁目
2	札幌市 N30 遺跡 出土品	札幌市指定有形文化財	札幌市指定有形文化財に指定された出土品は、報告書に掲載された資料で、内訳は復元土器367点、土器片285点、石器645点、石製品・土製品等の総計1,413点。札幌の縄文時代後期から晩期にかけての生活状況や埋葬方法などを知るうえで重要な資料として指定されたもの。これらのうち、縄文時代晩期末の第1号土坑は、径122cm、深さ54cmの大形の墓で、底面からは2列に並んでサメの歯が20点、土器片1点、石器4点が出土し、一部に赤色顔料が散布されていた。また、上部からは高さ24cmと大形の板状土偶が1点発見されたが、顔には仮面をつけ胴体には当時の土器に特徴的な文様「工字文」が描かれていた。なお、土坑の周辺からは琥珀製の玉類も出土している。	中央区南22条西13丁目 札幌市埋蔵文化財センター 展示室
3	丘珠縄文遺跡 (H508遺跡)	指定なし	約2万5千㎡の広さがある縄文晩期～続縄文初頭の遺跡で、複数の遺物包含層が地下2mの深さにそのまま保存されている。平成30年5月に、札幌市内で初めての縄文体験学習施設として整備されたこの遺跡は、市民ボランティアとの協働で継続的な発掘調査が現在も行われており、これまで見つかった出土品の一部は「おかだま縄文展示室」で実際に見ることができる。「おかだま縄文体験学習館」では、火おこしや土器パズル、土器づくり・玉づくりなどの様々な縄文体験（事前募集制、有料のものもあり）ができる。	東区丘珠町

4	丘珠縄文遺跡 (H508 遺跡) 出土品	指定なし	平成 25・26 年に実施した確認調査、及び平成 30 年度から継続して実施している発掘調査の結果、多くの土器や石器のほか、砂沢式 <small>すなざわしき</small> 土器、イモガイ形土製品 <small>がたどせいひん</small> 、琥珀製平玉 <small>こはくせいひらだま</small> など本州北部地域との交流を物語る遺物が出土している。また、炉跡の土を回収し、土の中に残っている微細な遺物を調べた結果、黒曜石などの小さな石器の破片や、エゾシカ、サケ、チョウザメ、クルミ、ヒエなど多くの動植物遺存体 <small>いぞんたい</small> が多く見ついている。	東区丘珠町 おかだま縄文 展示室 ほか
5	とよひらがわ 豊平川	指定なし	豊平川は、もともと札幌扇状地 <small>せんじょうち</small> の西側を流れていたが、時代を追うごとに東へと移動した。その移動に併せて扇状地が形成されていたことで、市内には形成時期の異なる複数の扇状地面をみることができる。そこでは縄文中期以降の各時期にわたって遺跡が残されていることから、昔も今も大地を潤す貴重な河川となっている。	
6	もいわ まるやま 藻岩・円山原始林	天然記念物	藻岩・円山の森林は、開拓使時代から保護され、原始林と呼ばれてきた。札幌南西部の豊かな山と森は、水源となって多くの河川を育み、縄文の昔から人々の生活を支え、潤してきたと考えられる。貴重な植生を持つこれらの原始林は、太古の昔から大都市となった現代まで、人々の生活の近くあるものとして貴重。	
7	北海道知事公館 敷地内の竪穴住居跡	指定なし	敷地全体が擦文文化 <small>きつもん</small> の遺跡 (C139 遺跡) であり、19 軒の竪穴住居跡が点在していたとの記録がある。縄文文化のものではないが、札幌都心部で古代の遺跡を実際に見て、感じることができる貴重な場となっている。 なお、北海道知事公館は、約 5.6 ヘクタールの広大な敷地に建つハーフティンバーと呼ばれる木造住宅建築様式の建物で、国登録有形文化財及びさっぽろ・ふるさと文化百選に選定されている。	中央区北 1 条 西 16 丁目

8	北海道大学キャンパス内の人類遺跡・北海道大学埋蔵文化財調査センター展示室	指定なし	<p>市内中心部に近い北海道大学の広大なキャンパスは、その全域が縄文からアイヌ文化期にかけての遺跡（K39 遺跡）。キャンパス内の「遺跡保存庭園」には、擦文期と思われる多数の竪穴住居跡のくぼみが現状のまま保存されている。また、北海道大学埋蔵文化財調査センターにより、多数の地点で発掘調査が行われており、キャンパス内の人類遺跡をトレースできる散策路も整備されている。</p>	北区北 17 条～18 条西 11 丁目ほか
	北海道大学附属植物園敷地内の人類遺跡	指定なし	<p>植物園の敷地全体が遺跡（C44 遺跡）であり、敷地内には、約 1000 年前の擦文文化の住居跡が地形の窪みとなって残る様子などを実際に目にすることができる。</p> <p>北海道大学植物園・博物館を始めとした国指定重要文化財または国登録有形文化財となっている歴史的建造物も見ることができる。</p>	中央区北 3 条西 8 丁目北海道大学北方生物圏フィールド化学センター耕地圏ステーション植物園

☆	札幌市埋蔵文化財センター展示室（中央区南 22 条西 13 丁目）	<p>埋蔵文化財センター展示室では、発掘調査で見つかった土器や石器など（実物）を通史的に展示しており、旧石器時代からアイヌ文化期まで遺跡の変遷を学ぶことができるほか、N30 遺跡出土土偶や、擦文文化の竪穴住居跡のくぼみが約 720 か所記録されている「旧琴似川流域の竪穴住居跡分布図」といった札幌市指定有形文化財を見ることができる。</p> <p>（※土偶及び分布図は、レプリカを展示）</p>
---	-----------------------------------	---